

患者さんに  
役立つちょっと  
いい話

相澤病院  
医療連携  
かわら版

2022.1 NO. 12



今回は、2022 年を迎えて、  
これからの病院について、皆  
さんにお話します。皆様にと  
って2022 年が健康で幸せ  
一杯の年でありますように。

## 新年を迎えて

皆さん、新年おめでとうございます。

今年は寅年ですが、本来の干支（えと）でいうと壬寅（みずのえとら）であり、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しています。これを象徴するかのよう  
に本年の元旦は青空が広がって暖かな日差しが降りそそぎ、空気は冷たいものの銀白の頂を天に向かって突き出す北アルプスが日を浴びて輝き、明日への希望と夢が大きく広がり、さわやかで凜とした風が緩やかに吹いていました。2020 年に始まった我が国の新型コロナウイルス感染症の拡大は我々の生活や社会に大きな影響を与え、非接触非対面による新たな日常生活や仕事も当たり前になりました。

の新型コロナウイルス感染症も今は新規感染者が多少増加傾向にあるものの、一時期よりは少なく、社会は落ち着いた状況にあると思います。まだまだコロナ感染症の先行きは不透明ですが2021 年のような混乱は起きず、徐々にポストコロナの社会をどう迎えるかが我が国の主要な課題になると思います。コロナ禍に翻弄された我が国は起きた事実を真摯に分析し、希望ある未来を創る為に活かさなければなりません。特にコロナ禍により生じた医療のひっ迫は我が国の医療提供体制の脆弱さを国民の目前にさらけ出すことになりました。医療逼迫の主な要因の一つが病院の機能分化と役割分担及びその機能に伴う病院の責務が不明確であったことです。近年は医療供給の過剰状態を解消することと医療費抑制を目的として1985 年から開始された医療計画と2014 年から始まった地域医療構想の二つの医療制度により我が国の医療提供体制は構築されてきました。





しかし、コロナ禍はこれらが適切な医療提供体制の構築に全く役立っていなかったことを明白にしました。この事実と今後急速に進む人口構造の変化及びこれに伴う医療需要の変容を合わせて考えると新たな時代に見合う医療提供体制を早急に構築することが我が国の喫緊の課題となります。我が国はこれからの時代の医療需要に見合った医療供給の体制を構築するために新たな一步を踏み出さなければなりません。

慈泉会においては、長年にわたり医療を必要とするすべての一般患者を相澤病院が受け入れることで地域に密着した市民のための医療を提供してきましたが、医療の高度化・細分化に伴い1病院だけですべての一般医療需要にこたえることが困難となり、2016年に病院機能を相澤病院と相澤東病院に分割しました。地域包括ケアを構築する松本市の東側地域を地域範囲として高齢者の入院医療需要を受け止める相澤東病院は分割後からかなり頑張り、理想の姿を目指して現在は発展・進歩の途上にあります。

一方で高度専門的な医療需要に応えるために施設設備の整備と職員の増強を進め松本医療圏の基幹的医療機関としての機能を充実させてきた相澤病院もその機能を更に充実させなければならないと思います。この両病院が各々の機能を更に高め、あるべき病院の機能分化と連携の姿を構築することが慈泉会の重要な目標です。





後期高齢者が増加する我が国では日常生活圏を基盤として住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるコミュニティを創る地域包括ケアの構築が重要な課題ですが、医療・介護の連携と地域包括ケアシステムの構築をどの地域範囲で行うのかの設定ができていないためにその構築は道半ばの状況といえます。

地域在宅医療支援センター松本は松本市の東側地域、一部北東や南東側を含める地域において相澤東病院及びその地域の診療所との医療介護連携を強化して望ましい地域包括ケアシステムを構築することが目標



です。この地域以外の地域においては相澤病院退院後の患者をその地域の診療所との連携によって在宅療養を支えるとともにその地域において介護サービスを提供する事業所やその地域の病院と連携して地域包括ケアシステムの構築に貢献していくことが目標です。慈泉会は分散する地域在宅医療支援の各事業所を統括する部門を設け、効率的効果的な事業を行う体制を構築し、分散化の弱点を克服します。

今後の我が国は、働き手人口の急速な減少に伴い健康寿命の延伸と働く意欲のある高齢者の健康増進は喫緊の課題となっていますが、相澤健康センターは健診だけではなく未病の方や健康な方の予防医療に取り組むことが重要な目標となります。

慈泉会がこれらのことを成し遂げるためには職員の皆さんの国民・県民・市民としての視点と現場感覚での発想さらには前向きで積極的な行動が必要となります。慈泉会も、全世代型社会保障改革や医療費の抑制などの逆風をはねのけ、寅年の本年は皆さんのエネルギーを一つにして未来に向けて挑戦し、共に前進し、希望ある未来を創り出す元年にしたいと思います。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。

(職員に向けた2022年相澤孝夫理事長年頭挨拶より)





相澤病院、相澤東病院も新たな年を迎え、地域医療の役割を果たすため、決意を新たにしました。2022年の両病院のビジョンをご紹介します。

## 相澤病院のビジョン 2022



相澤病院 田内克典院長

1. 救命救急センターとして、患者病態に応じた迅速で的確な救急医療を実践する。
2. がん診療連携拠点病院として、悪性腫瘍に対する手術治療から集学的治療まで、一連の質の高い医療サービスを提供する。
3. 基幹型病院として、長野県の医療計画に記載された医療、相澤病院の強みとする医療を充実・強化して、広域型医療を展開する。
4. 必要な疾患別リハビリテーションと入退院支援を行うことにより、患者の早期社会復帰を促進する。
5. 患者と真摯に向き合い、最適な医療の提供に努め、継続して地域住民に選ばれる病院を目指す。
6. 職種間のコミュニケーションを良好にして、多職種協働による効果的なチーム医療を推進する。
7. 相澤病院の職員としての使命感・倫理観を持って、職能を磨き、患者の視点に立って、適正で安全な医療を提供する。



## 相澤東病院のビジョン 2022



相澤東病院 宮田和信院長

1. 地域密着型病院として、広域型急性期病院（基幹病院）には入院するほどでない急性期患者に入院医療を提供することで、患者及び家族の負担を軽減する。
2. かかりつけ医との連携により、24時間対応できる往診体制及び訪問診療体制を構築すると共に、訪問看護ステーションとの連携により、24時間対応できる訪問看護の提供体制も確保する。
3. 生活機能障害の増悪や嚥下機能低下が見られる在宅療養患者に対し、入院による集中リハビリテーションを行うことで機能改善を図り、在宅療養生活の質の維持を図る。
4. 相澤地域在宅医療支援センターおよび急性期医療を担う相澤病院との緊密な連携・協働により、患者の在宅復帰のための入院医療を提供する。
5. 相澤病院・相澤地域在宅医療支援センターおよびかかりつけ医・介護保険施設などの社会資源との緊密な連携による地域包括ケアシステムの構築を推進し、その中心的役割を担い高齢者の在宅医療を支える。
6. 職員一人一人が在宅療養支援に関わる専門職としての自覚と責任を持ち、慈泉会内部での連携を強固なものとし、多職種が積極的に協働するチーム医療を基盤に、在宅療養患者に良質な医療を提供すると共に家族の介護負担を軽減する。